

算数

小学校 第1学年

OS・ソフト等

- Windows
- MataMoji Classroom
- 学習者用デジタル教科書
- NEW! GIFU ウェブラーニング

<単元・題材名等>

のこりはいくつ ちがいはいくつ

ねらい

減法の式と絵を見て、減法の問題をつくることができる。

主なICTの活用方法

- ・ 大型提示装置で動画・デジタル教科書を映す。
- ・ 個人のICT端末で動画を視聴する。
- ・ 児童が作成した問題を提示する。
- ・ NEW! GIFU ウェブラーニングに取り組む。

ICTを通じて育成する資質・能力

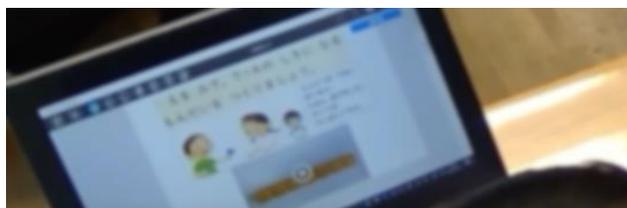
- ・ 減法の式と絵を見て、減法の問題（求残、求差、求補）を作り、自分の言葉で表現することができる。

実践の概要

式と絵から、問題の場面を捉えて、言葉で表現する児童の姿を目指す。ICTの活用については、低学年における実践のため、主に教師が操作を行う。導入では、大型提示装置を用いてブロック操作をしている動画を映す。そのブロック操作が表す場面を捉えさせることで、既習内容の確認と課題解決のための見通しをもたせる。終末には、児童が作った問題を写真に撮り、全体で交流し、幅広い考え方に触れることができるようにする。式から問題、問題から式へと往復して考えさせることで、減法の式と場面を対応させて理解できるようにする。

児童の学びの様子

- 既習のブロック操作の動画と具体的な場面を提示する。
 - ・ これまでに学習したブロック操作を基に、7-3という減法の式から、求残、求差、求補の場面を捉えた。
 - ・ 式や絵（上段）、それに関わる動画（下部）のシートを配付し、視覚的に内容を捉えて、減法の問題を作ることができた。
- 自分で作った減法の問題を、仲間と交流する場を位置付ける。
 - ・ 発達の段階を考慮し、減法の問題は配付された用紙に書いて取り組んだ。
 - ・ 自分で作った問題がブロック操作ではどのようなのか（求残、求差、求補のどの場面になるのか）を確認する姿があった。
 - ・ 教師が撮影した動画を基にして、作成した問題とブロック操作の様子から、どの場面の減法であるかを見いだすことができた。



指導のポイント

- 減法の式と絵に加えて、求残、求差、求補のブロック操作が確認できる動画をリンクしたシートを提示する。
- 低学年という発達の段階を考慮し、紙に問題を書いたり、ブロック操作を行ったりするなど、「ICTを活用する場面」と「使わない場面」を明確にする。
- 評価問題として、「NEW! GIFU ウェブラーニング」に取り組み、児童は学習内容の定着を図り、教師は定着状況をデータで確実に把握する。